

2020年9月に「JICA 健康と命のための手洗い運動」を開始し、はや2年が経過しました。皆さんの国では手洗いが習慣化されてきましたか？さて、この度は、10月15日の世界手洗いの日に合わせ、JICA 健康と命のための手洗い運動ニュースレター号外を発行することになりました。今回は、継続的に手洗い啓発に取り組む各国の状況をお伝えします！

【今号の1枚】アッチー・アードト（良い習慣）キャンペーン



アッチー・アードト（ヒンディー語で「良い習慣」キャンペーン）では、学校やヘルスセンター、コミュニティで正しい手洗いや爪切りの方法を伝える「セッション」を実施しています。特に子どもたち向けのセッションでは手洗いのデモンストレーションのほか、[ニュースレターNo.18](#)で紹介しているハローキティの手洗い啓発動画（株式会社サンリオさん協力）や「正しい手洗い漫画」（井上きみどりさん）等の教材を活用し、正しい手洗いの方法を楽しく学んでもらっています。

写真はデリーメトロ公社が支援するデリー市内のシェルターで2022年9月にセッションを実施した際のものです。株式会社LIXILさんの携帯手洗いステーション「SATO Tap」（[ニュースレターNo.18](#)で紹介）を使って手洗いのデモン

ストレーションを行いました。参加した子どもたちは手洗いの手順を学んだだけでなく、アッチー・アードトをデリー市内で広げるためのアイデアを提案してくれました！

（写真提供：JICA インド事務所）



「国際 NGO との連携による学校・保健施設の衛生行動改善に関する情報収集・確認調査」よりプレ調査の実施報告

「国際 NGO との連携による学校・保健施設の衛生行動改善に関する情報収集・確認調査」にて国際 NGO の WaterAid と協働し現地での活動を実施しています。（[ニュースレターNo.20](#)で紹介）

本調査では、タンザニア、マダガスカル、ネパールの3か国の75の学校、45の保健衛生施設、計120の施設を対象に手洗い場やトイレなどの施設建設・修繕、ベースライン調査、衛生啓発、エンドライン調査を主として実施し、手洗い含む衛生習慣を根付かせるための土台を整備し、ナッジ¹を含む衛生啓発を現地で実施し、結果をハンドブック及び報告書としてまとめます。

現在はプレ調査が完了し、且つ施設建設も完了に差し掛かっています。プレ調査の結果として給水設備の故障等により使用できない給水施設やトイレも多く、且つ次頁の円グラフに示すとおり3か国すべてにおいて、水と石鹼が利用可能な手洗い設備がない学校が半数を超えている状況でした。また、「手洗いをするのを忘れてしまう」ことが、水と石鹼が常備されていても生徒が手洗いを実施しない大きな原因であることが判明しています。保健医療施設については3

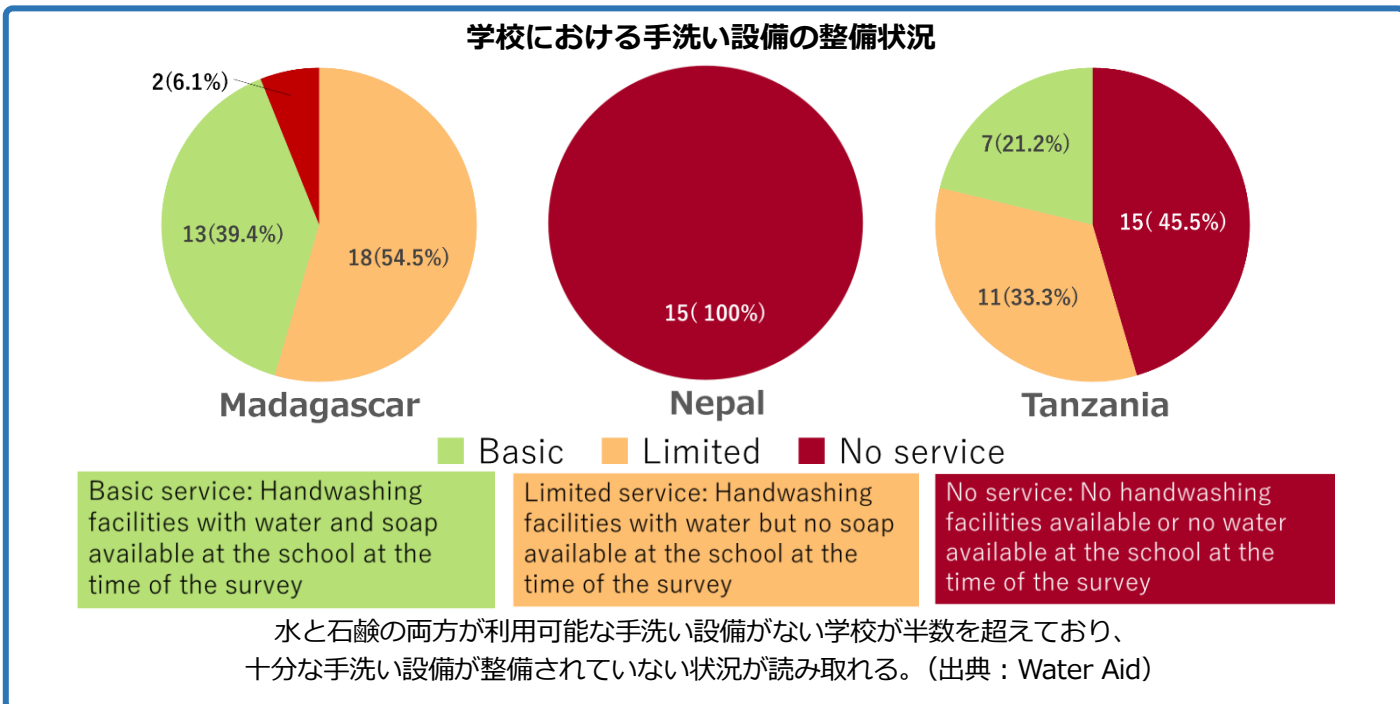


マダガスカルで設置した手洗い場にて
休み時間に外で遊んだ後、生徒が手洗いをする様子

¹ Richard H. Thaler and Cass R. Sunstein (2008), Nudge: Improving decisions about health, wealth, and happiness, Constitutional Political Economy volume 19, pages356-360

つの国において、機能している手指衛生施設（Hand hygiene facilities）がトイレ付近や治療室等に設置されていない状況でした。

施設の完工後はベースライン調査を実施した後、実際にナッジを用いた衛生啓発を行い、エンドライン調査にて効果検証を実施します。これにより得た知見を活用して学校及び保健医療施設での手洗いの主流化をさらに進めていく予定です。



(JICA 地球環境部 水資源グループ 水資源第二チーム 百貫 優斗)

ニジェール 手洗いによる COVID-19 等感染症対策と保健センターの活用による母子保健の改善

2020年3月にニジェールで初めて新型コロナウイルスの感染者が見つかりました。世界中が大騒ぎしているウイルスが首都ニアメにいきなり入ってきたと、国民は不安な気持ちでいっぱいでした。政府は19時以降の外出禁止令を敷き、ラマダン中のモスク訪問は禁止され、マスクは高騰し、一部の市民が反発するなど、市中は混乱の渦に。私たちニジェール支所は、この環境下で何かできることはないかと検討し始め、世界保健機構（WHO）と連携し、地方4州における母子保健改善・COVID-19等感染症対策支援を計画・実施しました。

ニジェールはイスラム教徒が多い国であり、お祈りの前の手洗いは欠かせません。1日5回以上丁寧に手を洗う彼らを見てみると、日本人よりもその習慣は定着しているようにも感じます。私たちはWHOとの協議の中で「新型コロナウイルスの対策（3密を避ける、ソーシャルディスタンス、手洗い・うがい）と組み合わせて、手洗いで防止できる他の感染症対策、そして最もニーズの高い母子保健の啓発も一緒にしよう」とプロジェクトの骨組みを作り上げていきました。

WHOによると、ニジェールの人口の約46%が保健センターから5km以上離れた場所に住んでいます。また、2018年の妊産婦死亡率は10万人出生あたり509人、15歳から49歳の女性の4人に1人は15歳を迎える前に結婚し、合計特殊出生率²も約6.8人と他のアフリカ諸国と比べても女性が出産する時期が早いうえ機会も多く、出産時のリスクが高い国の1つです。こういった背景から、地方における新型コロナウイルスの感染拡大防止と、母子保健を守る取り組みを固めていきました。



コミュニティヘルスワーカーによる啓発の様子

² 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する

活動ではまず対象地域4州の住民の中から350名のボランティアを募り、母子保健、マラリア、HIV/AIDS、コレラ、COVID-19などの感染症に関する1日研修を受講してもらいました。その後、学んだ知識を使い「コミュニティヘルスワーカー」として、110,925名の住民に対して啓発を行いました。手洗い活動に関しては、座学では手洗いの方法（石鹼を泡立てながら両手で回転させ、指の間、手首を約三十秒かけて洗い、その時間と同じかそれ以上の時間でゆすぐ等）、身体や衣服の衛生活動（体の汚れを落とし病気を予防するために、夕方にシャワーまたは入浴する。衣服はこまめに洗濯する等）、そして新型コロナウイルスの予防策について紹介しました。実技では手洗いキット（持ち運び可能な水の入ったタンク、バケツ、石鹼など）や身近にあるものを用いた効果的な手洗い方法を紹介し、住民も実体験を通じてその理解を深めました。また、自宅出産のリスクを減らすために、保健センターに通って安全な環境で出産に臨む重要性を伝えました。



プラスチック製のやかんを用いた手洗いの啓発

住民と行政の間に立つコミュニティヘルスワーカーは、先にお伝えした通り住民の中からボランティアで選ばれます。住民にとっては外部から来た見知らぬ人から説明を受けるよりも、年配者や知人からわかりやすく説明してもらうことで、一定の信頼感に繋がります。また、自身が学んだことを他の人にも伝えることは学びを深化させるだけでなく、プロジェクト終了後も啓発活動を行ったコミュニティヘルスワーカーはその地域に残るため、持続性の担保にも繋がります。

WHO 関係者によると「女性自身が保健センターに通う重要性を理解したため、他の地域と比べて子どもたちの健康状態が良い傾向にあると感じている」と述べ、現地の保健センターは「女性らが感染症対策と保健センターに通う重要性を理解したため、訪問者数が大幅に増加し、自宅出産も減った」といいます。



JICAから保健センターに供与された救急車

プロジェクトでは啓発活動のみならず、地域の中核となる保健センターを出産可能な総合保健センターにするための改修工事を行い、救急車をはじめとする機材供与も実施。これにより周辺住民10,338人がより安心できる医療機関へのアクセスが可能になりました。

私たちは、ニジェール政府が掲げる保健医療開発計画2017-2021に基づき、調和のとれた国の発展のため、そして母子の健康状態を改善するため、これからも活動を展開していきたいと思えます。

(JICA ニジェール支所 山本 主税)



ナイジェリア 手洗い習慣化のアプローチを通じた栄養改善

ナイジェリアは、JICAが2016年の第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）の際に立ち上げた「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA）」の重点国の1つです。

そこで、アブジャの連邦首都地区（FCT）では、2020年から、JICA初のIFNA案件である技術協カプロジェクト「連邦首都区における栄養改善能力向上プロジェクト（CADNIP）」を実施し、手洗い運動も取り入れています。本事業では、マルチセクター・アプローチを通じた栄養改善を目指しており、手洗い運動も重要な活動として位置づけられています。

栄養改善を実践する中で、手洗いの習慣は欠かせません。プロジェクトでは水、衛生、健康に関する研修を実施する中で手洗いの重要性についても説明し、家庭でできる正しい手



コミュニティでの水・栄養・健康に関する研修の様子

洗いの方法を参加者に実践してもらいました。研修後には、参加者の皆さんは手洗いの重要性を理解することができ、調理の前、食事の前、トイレの後などに手を洗うようになり、手洗いが自宅でも習慣となっています。また、手洗い運動は学校でも実践しており、プロジェクトが対象とした3つのコミュニティの学校で行った研修では、先生や生徒に簡易な手洗い用具（Tippy Tap）を紹介し、手洗いを練習してもらいました。

本事業の手洗い運動に参加した人数は、延べ約1,700人に上っています。今後は、本事業以外の場でもさらに手洗い運動を継続していきます。

（JICA ナイジェリア事務所 外村 晃）



学校での研修（Tippy Tap 紹介）の様子



地球環境部水資源グループからお知らせ

ハローキティと一緒に！(株)サンリオさんとの共同企画

みなさん、手洗いを続けていますか？ JICA「健康と命のための手洗い運動」事務局の地球環境部は、引き続き途上国で手洗いの重要性の周知や衛生習慣の定着が図られるよう、2022年10月、株式会社サンリオさんと、海外におけるハローキティのキャラクター使用許諾にかかる包括契約を締結しました。これにより、海外でも有名なハローキティの手洗い啓発動画について、英語版の利用や現地語版の制作、これらの取組みに関するポスターやパンフレット等広告宣伝の制作が可能となります。興味関心のある JICA 在外事務所、国内拠点、本部、JICA プロジェクトがあればぜひ、地球環境部水資源グループまでご相談ください。皆さんの国でも、ハローキティと一緒に、手洗い習慣の定着に向けた啓発に楽しく取り組みましょう！

<先行事例の紹介>

JICA インド事務所は、2021年1月からアッチー・アーダト（「良い習慣」）キャンペーンを開始。同キャンペーンを通じて、ハローキティと一緒に手洗いの重要性や衛生習慣の定着を広く周知してきました。株式会社サンリオさんと JICA の共同制作動画「正しい手洗い方法を伝える動画「キティといっしょに手を洗おう（Let's wash our hands with HELLO KITTY）」はこちらからご覧ください。



♪ [Let's Wash Our Hands with HELLO KITTY!! - YouTube](#)

♪ [Let's Wash Our Hands with HELLO KITTY!! \(Hindi Version\) - YouTube](#)

ご不明な点やご要望、ご感想がございましたら、下記までご連絡ください。

JICA 健康と命のための手洗い運動事務局（地球環境部 水資源グループ）

Web サイト <https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>



地球環境部水資源グループ代表アドレス gegwt@jica.go.jp

